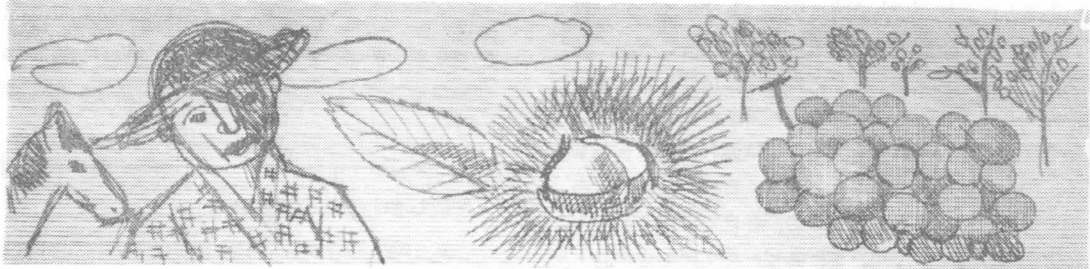


10月



会報

THE ROTARY CLUB
OF TSURUOKA



秋の果物

第170回例会 1962.10.16 (火) 晴 白夔社会員

長谷川氏 絵

例会場 鶴岡市一日市町 ひ さ ご や (707番)

事務所 鶴岡市馬場町十日町口 商工会議所内 (1563番)

出席報告

本日の出席	出席数	$\frac{34}{44}$ 名	欠席者	佐藤(伊)君、五十嵐君 金井(国)君、伊藤君 大野君、荘司君 金井(勝)君
出席率	77.27%			
前回の修正出席	前回出席率	75.00%	メ	五十嵐君(酒田R.C)
修正出席数	$\frac{35}{44}$	ク	ア	張 君(クク)
修正出席率	79.55%		ツ	嶺岸 君(クク)

拝している高山儒牛先生の出身地でもあります。私は数年前、門下生であり鶴岡出身の鈴木君に案内していただいて、高山家、三井家を訪問し、高山儒牛先生や三井光弥先生の御遺跡を拝見させていただいたのが御縁で、その後、毎年の如く、鶴岡を訪れ、三井家、高山家の方々に親しく御交際願つて居ります。

私と鶴岡の関係の第二は、私の叔父と石川倍堂先生とが友人であり、私も下手ながら詩歌を作つたりすることが好きなので石川先生からも御指導いただいたりして御交際願つたのであります。

更に第三は、私は徳島が故郷なのでありますが、御存知の様に徳島は戦災の為に城下町としての姿を全然とどめて居りません。しかし、この鶴岡は城下町としての面影を残して居ります。私はこの雰囲気が好きなのです。鶴岡へ来ると、何か故郷へ帰つた様な気持ちになります。

そして最後に、私がやはり独文学の関係で御交際いただいで居ります。現在の日本独文学の泰斗であられる相良守峯先生も御当地出身であられるのは、何か因縁深いものを感じずには居られないのであります。

以上の如き種々の関係で、私は鶴岡が私とは切つても切れぬ様な結び付きになつて居ることを、いつも感じて居ります。

さて、私は昨年、ドイツのハイデルベルヒで開催された、世界小児科学会に招かれて出席して参りましたが、その滞在中に、ハイデルベルヒ・ミュンヘン・エッセン・パリーの各ロータリークラブの例会に出席することが出来ました。その時に感じたことではありますがドイツ人のロータリーに対する考え方は、日本のそれとは全く相反

○司 会 副会長 池 内 君

○ソ ン グ 我等の生業 リーダー 広瀬君

○ビ ジ タ ー 永井一夫君 (シニヤアクチブ
札幌R.C)
弦巻作治君 (酒田R.C)

卓 話 「雑 感」 永井一夫君

私は昭和25年に北大を停年退職致しましたが、元来小児科が専門でありましたので、どこか病院の御手伝いでも致すべき処でありましたが、何か門下生の繩張りを荒すような気がして居りましたところ、丁度幸にも某女子学園から招かれましたので、現在、女子教育のお手伝を致して居ります。

鶴岡と私の関係は次の様なものであり、私の何番目かの故郷といった感じで私はいつも鶴岡を訪れて居ります。まづ第一に、私は医学が専門である関係上、独語や独文学に対して非常に興味をもつて居ります。鶴岡は独文学で有名な三井光弥先生の出身地であり、また私の崇

しているのではないかと言うことであります。御存知の様にドイツ人は日本人に比較して非常に几帳面であり、時間なども実に正確に守られて居り、学会などでも、あまりに几帳面である為に困ることすらあつた程に、実に正確に時間が守られて居ります。ところが、私がドイツの各ロータリークラブの例会に出席して、まづ驚いたことは、時間的に実にルーズであつたと云うことであります。どの例会でも開会時間は遅れ、スピーチも長く、閉会時間は従つて遅れると云う有様でした。食事でも画一ではなく、各自が注文して、各自で支払うと云うことで何らの拘束もなく、またスピーチも何か哲学的・形而上学的な話が多く、会員はまたそれをのんびり聞き入っている様子であつた。偶々、私の聞いたスピーチも、あの有名な「西洋の没落」を書いたスペイングラの学説についての話であり、非常に長い話であつた。

この様な状態は、ドイツ人の割切つたものの考え方から来ているのではないだろうか。ドイツでは昼休みが長く、全ての人々が昼になりますと、一切に仕事を止めて休みますが、彼等はロータリーは休養時間に開かれる会だから……という考えでロータリーに集つてくるのではないのだろうか。

日本では「時間」という觀念が薄く、ロータリーだけが「時間厳守」を実行しているのと考え合せて、非常に興味ある現象だと感じました。

戦後、日本もドイツも敗戦の結果、全ての面でアメリカの指導を受けて参りましたが、ドイツでは自分達の習慣に合わないことは、そのまま受け入れることなく、自分達に合わせて実施して居り、逆に日本ではアメリカの指示に従つて、全ての面でそのまま受入れて実施している傾向が感じられました。

教育と言う面からみても、ドイツの学生達は、学校とは勉強する場所であると自ら割切つて居り、学生時代に、社会活動とか政治活動などは全然行われて居りません。

ドイツから帰つて、同じ様な状態にある日本とドイツが、そのものの考え方や受入れ方に全く相反する様な比較がなされる点について、非常に興味を感じたのであります。

最後に、いつも御世話になつている当クラブの三井先生を始めとする医師の諸先生や、皆様方に厚く御礼申し上げます。

○連絡事項

○NHK第2放送8時より、塩田先生の「外科医20年」と云う自叙伝のお話があります。

○幹事報告

○会報到着 弘前東、郡山、山形西、台南、湯沢

○例会時間変更 寒河江R.C 10.18 午後5時より
新庄R.C 10.19 12時より

○仮クラブ設立 岩手県久慈R.C 毎火曜 12.30より
事務所 岩手銀行久慈支店

○東京インターシティーミーティング(11月12日)
参加希望者は、次回例会10月23日迄幹事に御連絡下さい。

○インターシティーフォーラムの準備委員長会議を開催致します故御出席下さい。

日時 10月20日 午後1時

場所 ミソノグリル

国際奉仕委員会

◎ニューブランズ、ウイック、ロータリークラブの新、旧会長宛に、DR. AND MRS KLER. クラ博士御夫妻の鶴岡ロータリークラブの訪問に対するお礼と共に、ロータリーの友雑誌、7、8、9月号をお送り致しました。その意味は日本のロータリアン達は英語の読めない方でもよく勉強していることを紹介し、又よく活動していることもおわかりになりましたと思つたからです。ニューブランズ、ウイック、ロータリークラブの新会長はARTHUR R. HORN ER、アーサ、アール、ホナさんで、新幹事はW. ARTHUR MC-KINNEY、ダブリウ、アーサ、マツ、キンニさんです。どうぞよろしく。日本語で結構ですから、お便りを致しましょう。と云うのは、アメリカにも日本語の読める人が容易に見つかります。日本語の読めないアメリカ人はそのところに日本の方と知り合いになります。そこに、国際奉仕の始まりがあらわれ、国際親善がおこつて来ましょう。本当に、日本のありのままの姿を見せ、日本を理解していただくためには、THE ROTARY-NO-TOMO、ロータリーの友によるロータリアンの紹介も必要と思います。

○ニコニコ箱

嶺岸君 早退、一日講習欠席

三井君 地区大会出席

池内君 会長代理

小池君 九州旅行

吉村君 前回欠席

○本日の献立

煮物 豚肉、舞茸

焼物 大魚みそ漬

お汁 なめこ、豆ふ、みつ葉